

第 23 回 生殖看護学会 学術集会

CN 企画ワークショップにて登壇 B グループ

那覇, 2025. 10. 12-13

育てたい「支える力」～生殖看護を支える現任教育の実践と工夫～

○佐野 郁美

医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

【緒言】生殖看護に携わる看護師は、専門的な知識と技術に加えて、患者に寄り添う支援力が求められる。現場では施設の特性に応じた教育体制が必要である。そこで本発表では、当院の新人教育を中心とした現任教育の取り組みを紹介する。

【取り組みの実際】当院ではプリセプター制度を導入し、新人看護師にはプリセプターを中心に、診察室、採卵室、処置室のエリアごとに複数のサポートーが支援する体制を整えている。複数の先輩が関わることで、知識や技術の偏りを防ぎ、教育の質の向上を図っている。また、指導者間の連携により、サポートーが指導者の相談役にもなり、指導者自身の教育にもつながると考えている。また教育計画では「看護実践評価シート」や「力量チェックリスト」を活用し、看護実践力や生殖看護実践力の客観的な評価と自己評価を組み合わせている。経験年数を重ねても、継続的なスキル向上に努めるよう取り組んでいる。

【課題と展望】業務に追われる中、プリセプター、プリセプティー間の振り返りとしての時間が確保することが困難。世代間ギャップによる情報提供の在り方への配慮が必要で、X世代、Y世代、Z世代の違いを踏まえた教育方法の見直しが必要であり、多様な世代に対応した指導法の確立が求められる。